

小学校の家庭科教科書を用いた 家庭分野のガイダンス的な内容の授業

<小学校での学習を踏まえ中学校での3年間の学習の見通しを立てさせる授業>

小学校と中学校の学習の連続性と系統性を重視し、小学校の学習を踏まえた中学校での3学年間の学習の見通しを立てさせるため、平成22年度入学生に対してガイダンス的な内容の授業を行うことにした。小学校の家庭科教科書を用いてガイダンス的な内容の授業を行うことにより、生徒たちは小学校の学習内容を想起するとともに、中学校3学年間の学習の見通しを立てることができるであろう。

1. はじめに

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習内容は、実践に移されてこそ意義をもつものであり、児童・生徒の発達段階に応じた実践力を身に付けさせるための継続的な指導を仕組んでいくことが必要である。現状の課題としては、小学校・中学校における学習内容が学習者の中で効果的に関連付いていないことや、指導者自身が他校種の指導内容との関連について十分理解していないことなどが考えられる。

2. ガイダンス的な内容の授業

第1学年の最初の授業で、イメージマップを用いて家庭科から思いつくことを、まず「できることを書こう」（生活の技能）、次に「知っていることを書こう」（知識・理解）、最後に「思いつくことを書こう」という順に記述させた。イメージマップの記述後、事前に連絡をして持参させた小学校の家庭科教科書と中学校技術・家庭科（家庭分野）の教科書を使い、目次を中心に必要に応じて該当の頁を開きながらガイダンスを進めた。そして、その次の授業のはじめに再度イメージマップで同様の記述をさせて記述内容を分析し、生徒の意識の変容を考察した。

3. 結果と考察

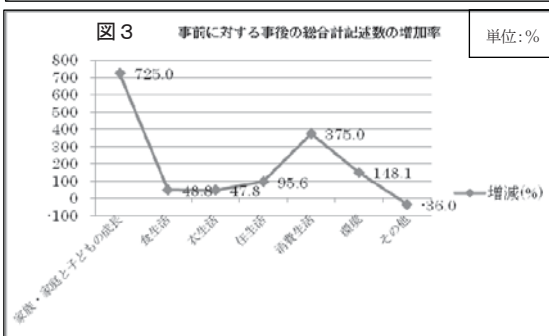
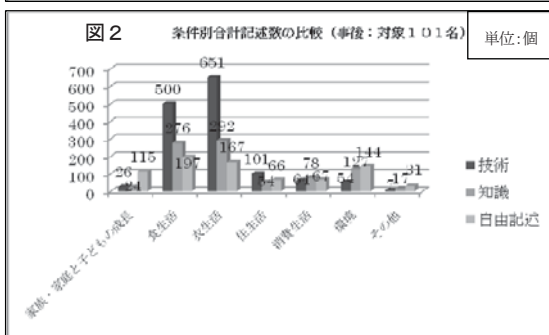
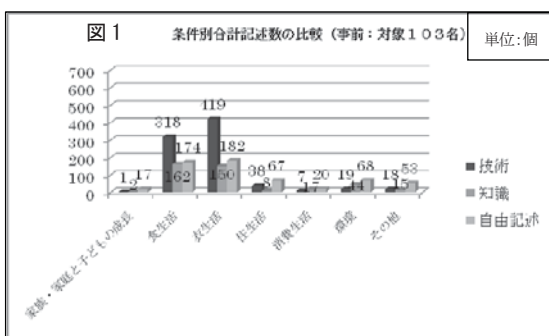
イメージマップの生徒の全記述は、「家族・家庭と子どもの成長」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活」

「環境」の6項目と「その他（複数の内容が含まれている記述またはいずれにも分類できない記述）」に分類し、『技術（できること）』『知識（知っていること）』『自由記述』に関する内容ごとに記述数の合計をまとめた。（図1 図2）

事前の記述では、記述数は、「衣生活」と「食生活」が特に多く、次いで「環境」「住生活」「消費生活」「家族・家庭と子どもの成長」の順であった。記述内容は、「衣生活」「食生活」「住生活」が『技術』に関する内容が『知識』に関する内容より多く、「環境」「消費生活」「家族・家庭と子どもの成長」は『知識』に関する内容の方が多かった。このことから、小学校の学習の中で、布を使った製作や調理実習、掃除や整理整頓のような活動を伴う内容に対する印象が強く残っているものと考えられる。一方、「環境」「消費生活」「家族・家庭と子どもの成長」は、製作やものづくり的な活動、実習を取り入れにくいことから、『知識』としての印象の方が多く記述に表れたものと考えられる。

事後の記述では、記述数の順位に変化は見られないが、ガイダンス前に対するガイダンス後の総合計記述数の増加率（図3）を見ると、事前の記述数が少ないほど事後の記述の増加率が高いという傾向にあり、ガイダンス的な内容の授業によって、小学校家庭科の学習で印象が薄かった内容の想起が促され、イメージが広がったといえる。なお、事前・事後とも、「環境」の記述数が「衣生活」「食生活」に次いで多いのは、家庭

科以外の授業，例えば総合的な学習の時間や生活科で環境問題について学習し，社会科，理科，国語科などの学習内容にも関連する内容が含まれていることから，家庭科独自の学習内容としてではなく，それら全体に対する印象があるためと推察される。また，「その他」の記述数のみ減少したことから，生徒のイメージが整理され，抽象的な表現が減り，明確に分類できる具体的な記述へと変わったことがわかる。



生徒個々の記述を見ると，ある生徒（図4）は事前に「家族・家庭と子どもの成長」3，「食生活」2，「衣生活」4，「環境」2しか記述することができなかつた

が，事後では「家族・家庭と子どもの成長」5，「食生活」7，「衣生活」20，「環境」6と全体の記述数が増え，「消費生活」2も加えることができた。また，別の生徒は事前に「食生活」10，「衣生活」7，「消費生活」1を記述していたが，事後では，「家族・家庭と子どもの成長」5，「食生活」11，「衣生活」6，「住生活」3，「消費生活」7，「環境」5となり，全体の記述数が増えただけでなく，6項目すべてにわたる記述が見られるようになった。

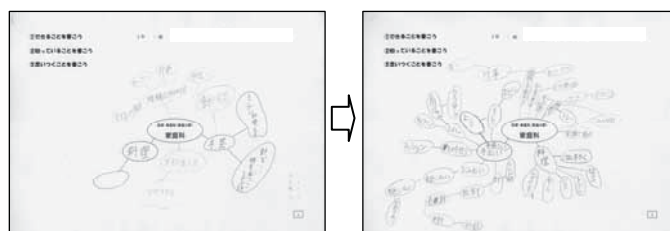


図4 生徒の記述

4. おわりに

イメージマップの記述から，小学校家庭科の学習において，単なる知識としてではなく，実践的・体験的な学習活動を通して得た「できる」ということが生徒の印象に深く残りやすいことがわかった。このことから，実践的・体験的な学習活動を通して実感を伴った理解をすることが重要であるため，年間指導計画の中に意図的・計画的に位置付けること，またその質を高めるために，より効果的な題材構成を行う必要があると言える。

ガイダンスで用いた小学校の家庭科教科書は，その後も常時家庭分野の授業教室に置いておき，小学校の学習の振り返りや中学校の学習とのつながり確かめるために活用している。



図5 小学校の家庭科教科書

参考文献・参考Webページなど

著者管理Web (<http://www.k2.dion.ne.jp/~you-i/>)にて，これまでの授業実践及び研究成果をご覧いただけます。